



## 1. 第14回 IFERC 事業委員会および第13回 IFMIF/EVEDA 事業委員会の開催

第14回 IFERC 事業委員会が3月18～19日に、第13回 IFMIF/EVEDA 事業委員会が3月19～20日に、それぞれ国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟において開催された(図1および図2参照)。今回の事業委員会では、主に各々の事業における2013年の年次報告、事業計画の改訂案等を審議し、本年4月に六ヶ所村で開催される第14回 BA 運営委員会への技術的な勧告をまとめた。また、同年次報告、事業計画の改訂案を運営委員会に提出し、承認を求めるとの事業長の提案に同意した。

IFERC 事業委員会においては、欧州からデビッド・メゾニエ(欧州委員会)議長を含め委員3名と専門家9名(一部TV会議で参加)、日本側から福山(京大)委員を含め委員3名と専門家8名、中島事業長を含め事業チームから5名、事務局1名の計29名が参加した。

会合では、計算機シミュレーションセンター(CSC)では、昨年末に増強したシステムが2月13日から、ユーザーに共用が開始されたこと、高い利用率で高性能計算機が運用されていること等が、原型炉R&Dでは、欧州(イタリア)で製作した炭化ケイ素複合材料とリチウム鉛液体金属との共存性試験装置について、本年1月末にイタリアでの受入検査に合格し、本年5月頃に六ヶ所サイトに搬入予定であることが、さらにITER遠隔実験センターでは、遠隔実験のためのソフトウェア開発が日欧で開始されたことがそれぞれ報告され、それぞれ年次報告として承認された。

次回の第15回 IFERC 事業委員会は10月6～7日に日本で開催される予定。

IFMIF/EVEDA 事業委員会においては、欧州側からオブライエン(F4E)委員他委員3名と専門家4名、日本側から高津議長を含めて委員3名と専門家8名、これにナスター事業長および事業チーム員11名の計29名が参加した。

会合では、原型加速器については、昨年11月からフランスCEAの専門家の立会いの下、欧州から搬入された入射器の開梱作業、内容確認、真空リーク試験等の予備的作業を始めており、日本の業者による本格的な組立作業を本年3月からビーム試験を本年7月頃から開始できる見込みであること、さらに、入射器については、放射線障害防止法に基づく放射線発生装置使用許可を昨年9月末に申請し、本年2月27日付けで許可されたことが報告された。リチウム試験ループについては、2012年9月から開始した実証試験を継続し、本年夏頃に実証試験を終了する予定であること等が報告された。審議の結果、それぞれ年次報告として承認された。

次回の第14回 IFMIF/EVEDA 事業委員会は10月8-9日に六ヶ所で開催される予定。

## 2. 第4回原型炉設計プラットフォーム会合の開催

2月19～20日に、国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟において、第4回原型炉設計プラットフォーム会合がエネルギー産業に関わる企業の参加も募り開催された(図3参照)。本会合は年1回開かれてきており、大規模なエネルギー生産プラントである核融合炉への理解を深め、概念検討段階から検討すべき課題と対応策について様々な角度から概観することを目的としており、炉心プラズマから炉工学まで幅広い分野の若手研究者を中心とし機構内外から参加してもらっている。

今回は、原子力機構から19名、大学、企業等から16名の計35名が参加し、電力源としての核融合炉の要件や運用に必要な保守・点検、核融合炉の安全性や規格・基準、核融合炉の建設に向けて炉設計段階から検討すべき課題と対策等について講演、発表があり、活発な議論が交わされた。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 第14回 IFERC 事業委員会の会合の様子(3月18日、国際核融合エネルギー研究センターにて)。



図2 第13回 IFMIF/EVEDA 事業委員会の会合の様子(3月19日、国際核融合エネルギー研究センターにて)。

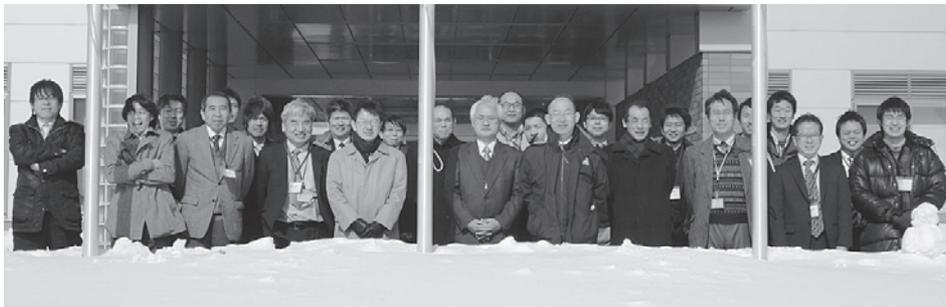
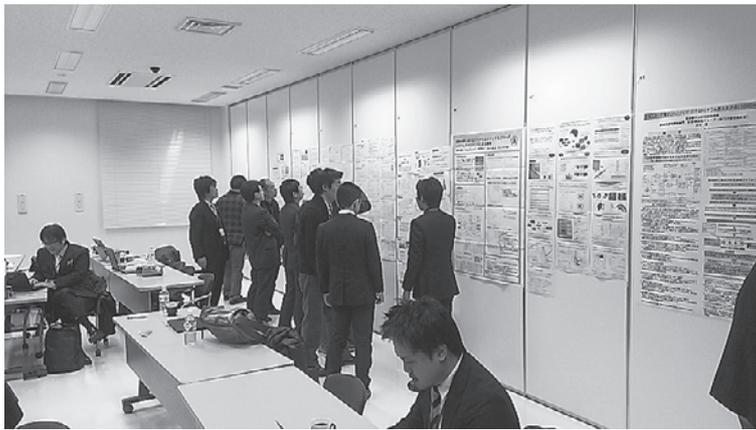


図3 第4回原型炉プラットフォーム会合（2月19～20日），上：講演の様子，中：ポスターセッション，下：参加者.